



共同通信



2011年3月22日 175(385号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 75 「私の趣味は『アマチュア無線』です」

いつも前田知子の横に控えておりますのが連れ合いであるところの私、前田充彦です。知子の自己紹介にもありましたとおり、私の趣味は「アマチュア無線」です。今となっては世間では古典的な趣味になってしまいましたが、かつては約20年毎にブームがやってきて、切手収集と並んで「趣味の王様」とも称されておりました。中学生の頃からアマチュア無線の存在を知っていたものの、高校生の途中で文系に転向したため、その後は頭の片隅にもなくなっていました。

そんな私が無線を始めることに

なったきっかけは、阪神・淡路大震災でした。当時は携帯電話が今ほど普及しておらず、電話網を寸断された被災地では、アマチュア無線家が各地に散らばって避難所と拠点間の通信支援を担ったそうです。手元にある資料では、2月12日に復興支援専門の局が免許されて津門川町の福祉会館の場所を借りて開局し(ここに震災救援社協合同本部の現地事務所があった)、登録ボランティアだけでも55人が入れ替わり立ち替わり運用を担当したそうです。こういう局はおそらく被災地域に数局あったでしょうし、各避難先にも連絡の受け手と

時代にふり回されるのではない
あの時 心を躍らせて生きた
後悔に 身をふるわせたこともある
笑い 泣き 歯ぎしりをした
今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい

なる有志多数が活動に参加したもの
と思われる。3月15日までこの体制が続き、順次規模を縮小しながら4月15日に閉局しています。(この頃には電話が復旧していた?)

復興支援アマチュア無線局開局の新聞記事を読んだ私は、かつて憧れていたアマチュア無線のことを思い出し、翌年には従事者免許・無線局免許を得て、晴れて無線の世界にデビューしたのであります。(なお、わが家では、知子も結婚後、アマチュア無線の免許を取得しています!)

ところで今回の東北関東大震災では被災地域が広範囲に及び、停電が続いています。電話回線はもちろんのこと、携帯電話の基地局が倒壊・停電していて機能しないので携帯電話もなかなかつながりません。そんな状況ですから、アマチュア無線業界でもいろいろ活動を始めています。(基本的にアマチュア無線は個人の趣味の延長なので組織だった活動が不得手であるのは残念なところですが)いくつか紹介してみます。

1. アマチュア無線の全国組織では、東北地方の局から発信された情報を東京・巣鴨と大阪・池田にある拠点で受信しています。受け取った情報は東京・巣鴨で集約して精査した後、現地の県庁等に伝えています。この活動は3月20日頃まで続きました。

(支援の主眼が救命救助から生活支援
2 に移ってきたため)

2. 総務省より通信機器の貸し出し要請がありました。(この状況下ですから貸したら最後無事に機材は戻ってはこないでしょうけれども)要請を受けて、各都道府県単位で有志から無線機や乾電池を取り集め、順次提供しております。また、無線機メーカーからも簡単に扱えるトランシーバー計300台の提供を受けております。現地でのニーズも高いようです。配送手段が確保され次第、現地の自治体・避難所等に届けられるよう調整しています。

3. 現地在住のアマチュア無線家で、現地での通信支援に従事できるボランティアを募集しています。前記のとおり各避難所にトランシーバーを送り込みますので、それを操作できるスタッフが必要なのです。

アマチュア無線業界ではこのような活動をしています。私自身はといえば、東北地方と安定して交信できる設備もありませんし、提供できる機材も持ち合わせておりませんので、何かのお役に立てればと思い、知子とも相談して夫婦で若干の義捐金をさせていただきました。あとは、重要な通信に妨害を与えないために、余計な通信を控えております。(現地からは微かな電波で救命要請があるかもしれないので、自らはKeep Silentが鉄則だと思っています)

以上、災害時におけるアマチュア無線の活動について、思いつくまま

に書いてみました。皆様の理解の一助となれば幸いです。

阪神・淡路大震災当時の活動資料は神戸大学震災文庫にあるアーカイブ

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/directory/eqb/book/14-145/index.html>

が参考になります。

(前田 充彦)

しっとりとなみだを吸へる 砂の玉

なみだは重き ものにしあるか

(石川啄木)

自分(たち)の現状が、少しばかり変わることを願ってするのが祈りだとしたら、少なからず安易すぎはしないかと、誰かが書いていました。祈りということと遠くない位置の、キリスト教という宗教を仕事にしている、聖書の描く古代の人たちはそんなに安易には祈っていないように思わされてきました。ただし、安易に祈ってはいないはずなのに、それを安易に読んでしまえたりするのも確

かです。たとえば「わが神、主よ、わたしはあなたに寄り頼みます。どうかすべての追い迫るものからわたしを救い、わたしをお助け下さい」(詩7篇1節)と祈る命が、すべての人としての営みを断念せざるを得ない状況や結果の“神・主”への叫びとして聞けるとしたら、それを生きてそれを知るものであって初めて可能かもしれませぬ。自分も含め、“寄り頼む”ものが他にあった時に、古代の人た

ちは“わが神・主”と祈り、叫んだりしなかったように思えます。ですから、「あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう」とクギを指すことを忘れません（出エジプト記20章5節）。

ただ、人は“すべての人としての営みを断念した状況”を生きている訳でも、生きたとしても、そのことを忘れやすかったりもします。“神・主”の名においてするものである祈りが、ないがしろにされることを人は自分のこととしても知っていますから、そのこと（ないがしろにされること）を強く戒めます。「また祈る時には、偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている」、そして「あなたは祈る時、自分のへやに入り、戸を閉じ、隠れた所においてになるあなたの父に祈りなさい・・・」、ほかに言葉かずを少なくとか、更に、求めなくても必要なものを神は知っていると、祈りをめぐってあれこれ書きます。そして更に「こう祈りなさい」と、マタイによる福音書6章5節以下で示される具体的な“祈り”が、多くの機会に多くの人たちによっても祈られてきました。“主の祈り”として。

ごとの食物を、きょうもお与えください」という祈りは、日ごとの食物が満たされるだけでなく、余らせて捨てる人たちによっても、平気で祈られてきました。ということも、あるのだと思います。自分（たち）の現状が、少しばかり変わることを願って祈られることもありました。そうではなくて「わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください」という祈りは、日ごとの食物が断たれた状況を引き受ける人たちの祈りである時、その祈りは祈りとして届くべきところに届くはずです。飽食の人も、「わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください」と祈ることは可能ですが、祈りがそうになってしまうことを、マタイによる福音書は許し難いと思っています。「また祈る時には、偽善者たちのようにするな」と。けれども、偽善者のように祈ってしまえるのも、祈りではあるのです。

要するに、切実な祈り（言葉）は、切実な状況を生きる人によってしか聞けないし、祈れない、ということなのかも知れません。

（菅澤 邦明）

“ あかりをつけましょぼんぼりに ”

あかりをつけましょぼんぼりに
～ を歌って始まった3月。ひなまつりの集まりのひと時を全クラスでもち、みんなのうた声と共におひなさまが登場しました。共同のおひなさまは、みなさまもよくご存じの小黒三郎さんが作られたおひなさまです。

誕生日の時に園長先生が切って下さる組み木もそうですが、この小黒さんのお雛様の表情、色使い、形に心が和むような、ほっこりする気分させられました。組み木の魅力をまた少し知ることができたような気がします。さて、この集まりで登場したのは、おひなさまだけではなく～、共同音楽隊も登場 春待ちメドレー

(安永早絵子さんに教えていただいた一曲です)を、演奏させていただきました。この一年間、城村さんや、安永さんにお力をお借りして、私たちのレパートリーがかなり増えました。2009年の夏、ドレミパイプを一人一本持って、演奏することからスタートした共同音楽隊。レパートリーが増えると同時に、私たちのレベルもUP!したんじゃないかな～と感じています。ドレミパイプ、スケルトンリコーダー、ハンドベル、スレーベル(大きな鈴)、ウィンドチャイム、カウベル、ホイッスル、そしてウッドブロックも数が増え、キーボードも新しくなり、楽器類も充実

しています。次はどんな曲を演奏できるのかなぁと毎回ドキドキしている共同音楽隊です。日本に1000台しかないというグリコワゴンが共同に5台もやってきたり、スズメバチの巣もやってきて、“あっ!”と驚いた2月でしたが、3月もたくさんの“あっ!”がありました。3月5日(土)に駅前公園OPEN記念のおまつりが行われ、駅前公園に全クラスで出かけました。後川からのお店もたくさんあり、みんなでポン菓子頂きました。ポン菓子屋さんの車の周りに集まり...ドキドキしながら待っていると“ポンッ!!”この音が鳴ると分かってはいるけれど、やっぱりびっくりするこの音。カメラを構えていたのですが、びっくりし過ぎてその拍子にシャッターを押してしまいました。大迫力の音を聞いた音、ポン菓子をおいしくいただいたお友達です。「わたしたちに足を乗せるときは、裸足で、そっと!」とお願いしている、駅前のなまず。この日のように駅前公園からたくさんの歌声と笑顔がいっぱいに広がっていきますように。

ポン菓子の“ポンッ!!”に“あっ!”と驚き、そして大きな大きなうまい棒。チュッパチャプスの登場にも“あっ!”となつて、2月に引き続き“あっ!”が多かった3月でした。

4月から今の学年、クラスが始まり、毎月親子の集まりが行われてきました。3月はこの親子の集まりも最後となります。今年はいつもととは違う最後の集まりの時間が予定されました。なんと！全クラス、親子でパンを焼こう！しかも一日で！なんて計画が立てられました。この日の為に、細かい時間の流れを考えて下さったり、材料を一家ずつに分けて下さったり、薪をたくさん準備して下さったり、当日、火の番をして下さった人がいたり、パン作りの指導をして下さった人がいたり...当日お越し下さり、こちらの声かけでたくさんのご協力して下さいましたお家の方々が出て、そんな多くの方々のご協力があって、この大プロジェクトが無事に終われたことを心より感謝致します。最初はどうかかなあとドキドキしていましたが、当日の朝「きょうパンやるんでしょー！」と、とびきりの笑顔で言った女の子の一言で緊張がとけたような気がしました。私にとって、とっても嬉しい一言でした。

パンを焼くだけでなく、園庭での時間もありました。靴を脱いで竹馬にチャレンジする姿、「おだんご最後まで作れなくて悔しー！」と叫んでいたりと、軽々とのぼり棒、うんていで遊ぶ姿、初めてコマを回す、なんて方もいらっしゃって、子どもと一緒に真剣に遊ぶお家の方々の姿がたくさんありました。そんなお家の方々にたくさんお支え頂き、2010年度も子どもたちの幼稚園の毎日が守られたことを心より感謝致します。ありがとうございました。

東日本大地震について、毎日テレビや新聞でたくさん情報、映像を目にするたびに胸が苦しくなります。胸が苦しく、悲しみ、不安でいっぱいですが、今ここで懸命に生きる小さな命としっかり向き合い、与えられた命を大切にしていきたいと強く思います。

(延原 光)

すずや便り

・3月11日は長女の誕生日です。「おかあさんがおかあさんになった日」(長野ヒデ子、童心社)のタイトルを見た時は、そんな風に考えればいいのか、と肩から力が抜けたことを覚

えています。私がおかあさんになって15年目の日、短縮授業になっている娘と二人でお昼を済ませて誕生日のケーキをどこに買いに行くか相談をしている時でした。関東では地震

はよくあるので、今日もいつものことか～と思っていたところ、止まるどころかどんどん大きくなる揺れ。急いでテーブルの下に潜りましたが、引っ越しを控えて段ボールが積んであることに気付き、家具を置いていない寝室のベッドの上に移動して、頭から布団をかぶって二人で抱き合っていました。今までに感じたことのない大きな揺れで船酔いのようなになり、揺れが収まってもしばらくは身動きがとれません。少し落ち着くとまた揺れる、という繰り返しでした。テレビをつけて、大地震が起こったことは分かりましたが、とにかく小学校にいる息子を迎えに行かなければと、娘と一緒に小学校へ行きました。毎年災害時の引き渡し訓練をしているので、当然親がくるのを待っているだろうと思ったら、集団下校が始まっていて、なんとか息子の顔を見つけた時は本当に安心しました。冷静に考えれば、電話も携帯も全く通じなくなったので連絡の手段もなかったとは思いますが、これまでの一斉メールを前提にした訓練は何だったのかな、と感じました。帰宅してからも余震は続き、主人とは連絡が取れません。夜になりやっと電話が通じた時はほっとしました。偶然仕事で茨城にいたそうで、揺れはものすごかった上に全部停電してしまい、信号もつかないので大渋滞とのこと。車だったので、なんとか深

夜に帰宅できただけでも良かったほうなのでしょう。地震の直後は携帯のeメールは「新着メールを取りに行く」にしないと受信できませんでした。ネット回線を使うスマートフォンのメールやツイッター、スカイプが活躍したという話も聞きました。よければ参考にしてください。

連日の報道を見ていると、あの揺れのあとで即座に高所へ逃げるということはかなり難しいことだと思います。本当に、言葉になりません。被害はなかったものの震度4程度の地震が何度かあり、買い物も普段通りとはいかない日々です。そんな中ですが明日、西宮へ戻ります。

• @3年前の秋の埼玉への転居を機会に「すずやだより」を書かせていただくことになり、そういう場があることはとても励みになりました。最後になりますが、今まで読んでいただいてありがとうございました。

(富家 香麻里)

みかん便り

こんにちは。みかん便りです。テストも終わり、春休み！！今、ディズニーランドに行くためにせっせと働いています。春休み中に行きたかったのですが、今はまだ資金不足なのです。。なので、春休みはいっぱい働いて資金稼ぎをすることにしました。決行は4月の終わりに

先日、バイト先の送別会がありました。うちのバイト先は学生が多いので、就職のためにこの時期にいっぱい辞めていきます。寂しいですね。今年も7人辞めていきました。僕が1番お世話になっていた先輩たちです。送別会の準備は3回生達。今年は僕たちの担当でした。「離れたくない！離れたくない！！」と思いながら送別会を企画し、迎えた当日。たくさんのお出し物、動画、プレゼントを先輩たちに贈りました。長々とかかった準備も一瞬で終わってしまいました。先輩たちもみんな泣いてくれました。ありがとうって言って泣かれるのはずるいですよ。離れたくないと思っけていても、「お疲れさまでした」って笑顔で言ってしまいますもん。「次の職場でも頑張ってください」って思っけてしまいますもんね。とても良い送別会でした。「頑張ってくださいねー」と明るくすっきり別れたんですが、いざ、今までいた人がい

ないところに行くと、違和感と寂しさと脱力感がわいてきますね。学校、クラブ、今村組など、今まで色んなところで味わってきた感覚です。相変わらず慣れません。うん。寂しい。来年は気持ちよく送られる側になりたいです。今年もしっかり働こうと思っけて数日間でした。

春休みに始めたことといえば、小学校の免許を取るために受験勉強を始めました。今いる学部だと中学・高校の免許しか取れないので、夢実現のためにあと1,2年学生を続けることにしました。地元の通信大学だけでも資格は取れるのですが、せっかく2年も学生をするのなら、受かるかどうかは分かりませんが、教育学部の大学院試験を受けようと思っけて決意したわけです。今いる学部では法律の勉強をしているのですが、社会科が1番嫌いな僕には苦痛の毎日です。なので、もし受ければ好きな国語科の研究をしたいと思っけてます。試験内容に基礎英語があるので英語を勉強し始めたのですが、高3の受験期に詰め込んだはずの知識がほとんど抜けていてショックでした。語学は定期的に文章を読むなりしてないとなっけてぱり忘れてしまうんですね。改めて実感しました。リスニングの方は音楽を聴いているだけあっけてまだ大丈

夫でしたが。久しぶりにしっかり勉強するのは意外と楽しいものです。高校の時は強制されるようにしていて苦痛で仕方なかったのに（笑）自分から学ぼうと思うことが大事なんです。

本試験まであと半年！！死に物狂いで勉強したいと思います！！

それではまた来月

（河村 高志）

~今月ののり~

自然のことを大切に思い、自らも深く学んで、そのことを語る仕事をされている先生から、春の野山の草花のお話を聞きました。

「花を咲かせるつぼみが膨らむためには雨が必要だから、今日みたいな雨も、きっと植物たちは喜んでいようだろう」

先生のお話、「雨が降ると人間が来なくなるから、踏み荒らされなくて植物たちは嬉しいんじゃないかなあ」そう、答えた子どもがいました。

植物たちにとっての恵みの雨を、ある人々が疎んだり、子どもたちが大好きな雪が、ある人々にとって生命を脅かす存在であったり、過ぎるのがもったいないような出会いの時が、ある人々にとって一刻も早く過ぎ去って欲しい暗闇の時間であったり、世界は全てが均等で、平等な訳ではありません。

神さま、あなたの愛こそがすべての人間に平等に降り注いでいることを思い起こさせて下さい。

今、暗い中、寒い中、空腹の中にある人々が、どうか一刻も早く満たされますように心から祈ります。

（大平 有紀）

教会学校から

《2月の活動報告》

2月6日(日)お雑煮を食べる

2月13日(日)カルタdeビンゴ&
足算(あしざん)で遊ぼう

2月20日(日)
幼稚園と合同・積み木遊び

2月27日(日)
篠山市後川・溪谷の森公園で野外礼拝

《2011年3月の活動予定》

3月6日(日)
津門川“ゆっくり”散歩・いかなご
ご飯を食べる

3月13日(日)
高松公園でドッチビー大会

3月20日(日)
教会学校入学式・“東北・関東大地震、
大津波被災者応援の集まり”

3月27日(日)
“東北・関東大地震、大津波被災者
応援の集まり”

2011年3月 あんなこと こんなこと...

大切な贈り物・津門川 100

“ 津門川掃除へのお誘い ”

毎月第一日曜日 12 時から行われる「津門川掃除」への参加を、幼稚園の先生が“おたより”で子どもたちに呼びかけてくれました。

2011年3月6日の津門川川掃除には、何と60人以上の大人と子どもたちが参加してくれました。川掃除後の昼食、そしてその後1時間近く集まった人たちの歓談が続きました。

つとがわ 編集後記

1995年1月17日、兵庫県南部大地震の時に発行した「津門川ニュース」を「津門川ニュース／東北・関東大地震・大津波ニュース」として発行しています。発行する為に、文章を書いたりすると、読み流していたりする新聞などの報道の、2、3日分の情報の比較、使われている用語の確認、過去の類似する出来事や事故を振り返ったりする、などのことが必要になります。たとえば、東京電力福島第一原子力発電所の事故のことは、事故そのもの、放射線の種類、放射線が広がっている様子など、それが確実に広がっていることも解ります。ヨウ素131は甲状腺、セシウムは肺などの臓器に、ストロンゲウムは骨や組織に、プルトニウムは血液に蓄積されるというようなことが解っていただけるニュースを、発行していますから、ご希望される方は申し出てください。尚、3月24日には友人、知人と、これらのことを打ち合わせする為、仙台を訪れることになっています。

(K)

冬の間中、水の中でじっとしていたメダカたちが、元気いっぱい泳ぎ始めました。このコたちも春を感じているんだなぁと思うと嬉しくなります。一人でも多くの人が春の穏やかな陽射しに包まれ、心が少しでも癒されますように。

(I)

高校時代の友だちがお母さんになりました。先日、会いに行くとすっかりお母さんの顔。彼女の腕の中で眠る赤ちゃんがすごく幸せそうな顔をしていて見るだけで私も幸せな気持ちになりました。生命の貴さ、愛しおしさを強く感じました。

今、同じ日本で防ぎようのない災害に巻き込まれて不安な日々を過ごしている方がいます。

1人でも多くの生命が救われますように。子どもたちの笑顔が守られますように。心から祈ります。

(Y)

夜道を歩いていると沈丁花、梅の花の香りが漂ってきます。自然と足取りがゆっくりになり、

心を落ち着かせながらいっばいに香りを楽しみました。

私たちの心に穏やかな気持ちを与えてくれる小さな命がずっとずっと生き続けますように、そして少しでも多くの方にこの香りが広がり安らぎ届けてほしいと願います。

(N)

とにかく風邪をひきたくない、そう思って過ごした3学期。冬は特にそう心がけるからかあまり大事には至らないし今期も無事に終えられそう。でも毎年結局1年の風邪ひき回数は減らずに4月とか少し暑くなってから冬の分もたっぷり長患い(喘息に発展して)ということが多い。「予言」はよくないが今年もそんな展開かなと思いつつ3月も間もなく終わりに。日々よく寝ること、しっかり食べることを一番にしていたら先日見た写真、何と横綱級の横幅で驚いた。今までのジーパンがはけるから大丈夫と信じてきたのにね。

春3月、心も明るくとききたいところですが、ニュージーランドのできごとに心を痛めているまもなく、11日の地震に大津波。ある日起こったけれど何日かすれば～ではない、何ヶ月すれば～の問題でもない、今もさることながら、これから思うとことばが出ない。11月27日に誕生した2人目の孫、ケタケタ笑う、子育て中でもあまり体験しなかった赤ん坊の様子に新たな驚き。2月末から3月にかけて入院騒動もあり心配させられた孫たちだが、その笑顔と笑い声に心の底から明るくさせてもらいながら、この子たちの明日は～とまたすぐに暗くなってしまう。春を感じる花芽や木々の蕾の膨らみを目にしても、この気持ちのエレベーターが上がり下がりしている。

(J)